
C21 ~天使軍対惡魔軍~

けんぱ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C21 → 天使軍対悪魔軍

【Zコード】

N6179Z

【作者名】

けんぱ

【あらすじ】

「コズミック・ルネッサンス」

それはロボットがいる宇宙。そこには多数の惑星が存在する。緑と水の惑星「ポイーン」、岩だらけの惑星「ゲルニア」、砂漠の惑星「ガルド」、氷の惑星「デゴ」。他にもたくさんの中の惑星が存在する。そして、ロボット達もまた、そこに住んでいる。常に平和な日々を送っていたが、ある日、隕石が落ちてきた。

そう・・・それが、今から100年前・・・

ポイーンに隕石落ちてきた。その中には、ナゾのロボットが出てき

た。その口ボは突然町を攻撃してきた。それが「悪魔軍」がだつた。町は壊滅状態になり、彼らは希望を失つた。だがそんな時、希望があふれる組織が出来た。それが「天使軍」だつた。彼らは全惑星に行き、悪魔軍と戦つた。その天使軍で最も強い3人組がいた。彼らは悪魔軍のボスを封印した。彼らは「伝説の天使軍」となり名を残した。

悪魔軍は全滅したかのように見えたが・・・

それから1000年後・・・

第1話 全ての始まり（前書き）

今日初めて投稿しました。たくさん見てください。^ ^

第1話 全ての始まり

あの戦いから1000年・・・複数の天使軍が存在するようになった。その天使軍の中に任務を終えたロボがいた。

ゼツ「ああ、今日も任務疲れた・・・」

彼は「ゼツ」

機体はビクトリー1

階級は中尉

メインはガトリング

サブはランス

機体力カラーはオレンジと白

目は黄色

性格はとても優しく、仲間想い。そして、なにより弟想い！！！少ししおおざっぱである。この天使軍の中ではリーダー的存在だ。彼は主人公ではないが弟いる。

ソル「兄さん、頑張りすぎ・・・」

彼は「ソル」

彼こそが主人公だ

機体はフログランダー

階級は少尉

メインはクロスファイアボン

サブはバイロングブレード

機体力カラーは黒と灰色

目は黄色

性格は兄のゼツと同じく優しい。だが、兄より仲間想いだけど、少し落ちこぼれで一部の天使軍には嫌われている。BSはなぜかブリックゲイル。彼にはとても辛い過去ある。ゼツのことは「兄さん」と呼んでいる。

ソル「だいたい、デカムカ・パッシュョンにあそこまで突っ込まないほうがいいよ。返り討ちになるよ。」

ゼツ「大丈夫だ。倒したから問題ない」

ソル「はあ……」

ソルは呆れてため息をついた。

彼らはセイリヨウビーチで任務をしていた。ルーキーがデカムカ・パッシュョンとデカムカ・フィーバーに襲われてたから救助に行つていた。

ドバル「2人とももうちょっと援護してくれ（トト）おかげで死にかけたぞ……」

彼は「ドバル」

機体はポウル

階級は少尉

メインはHDとBSの内臓武器

サブはメタルスレイヤー2本

機体力ラーハ灰色

目は赤

ちょっと?ハイテンション。ゼツとソルの親友。主にボケる。

ゼツ・ソル「ごめん……」

ランバル「そこまで謝る必要ないだろう……」

彼は「ランバル」

機体はスタッキード

階級は中尉

メインはセミオートライフル

サブはビームブレード

機体力ラーハ緑

目は青

ゼツとソルの親友であり、ドバルとは良きコンビである。よくドバルにツッコミを入れる。少し毒舌なところがあり。彼はそんなに言ってないが、周りのから「毒舌王」と呼ばれている。

ドバル「数が多くて大変だつたけど・・・まあ、まだ余裕だな」
ランバル「そうでもなかつただろう。お前夕口殴りにされてたぞ。」

ドバル「さあ～？何の～」と？

ランバルでめえり

ソル「ええええええ
・・・」

「まあ、こいだらう。」

ソル
ほし

「ゾンハリ おゾン」

4人は外でガレージの屋根に上がつた。4人にとってここが居心地がいい。寝転がつて空を見ると光が見えた。

ソル「何だあれ？」
ドバル「流れ星だろう？」

ランバル「昼間に流れ星が来るわけないだろう。」

セツ、ん、おい よく見なよ何か? こ、女は来てない?」

卷之三

他の天使軍の「命令」。見ておこう。

人々は爆発したタンクの周りに集まつた

見えた。

セツ、誰だあい?」

ゼツは嫌な予感がした。

次回「生きていた悪魔軍」

第1話 全ての始まり（後書き）

- やつぱり、小説は難しいですね^-^；文章下手かもしませんが・・・
- これからもたくさん投稿していきます wwwww

第2話 生きていた悪魔軍

前回の話

4人の天使軍の目に前にナゾの物体が落ちてきた！！
その中にいたナゾの口ボの正体は・・・

ナゾの物体の正体に胸騒ぎをしたゼツ。

ナゾの口ボ「ククク・・・久し振りにこの空氣を吸う。・・・そして、素晴らしい景色だな。」

一瞬にして全天使軍が恐怖感を感じた。

ナゾの口ボは火の海から出てきて正体がだんだん分かつてきた。
その正体は・・・

「デス・ドラゴン「フハハハ――――よつやく」の時が来た――――」

デス・ドラゴン

メインはエンハンドブレイカー

サブはインテグラルナイフ

悪魔軍のリーダー。1000年前に天使軍を破滅の寸前まで追い込んだ張本人。悪魔軍という名にふさわしく卑劣で残忍な口ボ。どんな口ボも殺してしまう。例え味方であろうと使えなければ殺す。

なぜ生きているか不明。

「デス・ドリゴン」「さあ！――！覚悟するんだ！――！天使軍！――！」

そう言つた瞬間、悪魔軍の転送装置が現れた。そして、悪魔軍の部下が大量に現れた。

デルビンとデルゴン

デス・ドラゴンの部下。悪魔軍で最も弱い奴ら。

ソル「悪魔軍！？」

ゼットやつぱりあつらか！！！全力でやるぞ！！！

4人の天使軍は悪魔軍と戦つた。剣がぶつかり合う音。銃声。人々の叫び声。だが、圧倒的に悪魔軍のほうが押していた。

「テス・ドラゴン「む？」

ガキーン！！！！

「デス・ドラゴン」「ほう・・・なかなか勇氣のある天使軍だな。クク
ク・・・だが、その程度では俺には勝てないぞ・・・」

「ドゴン！――！」

「デス・ドラゴンはゼツのアゴに蹴りを入れた。」

「ゼツ」「ぐ・・・・・」

ゼツがふらついた瞬間にデス・ドラゴンは剣を構えた。

「デス・ドラゴン」「お前を殺すのはもったいない。」

「ガ・ン！――！」

「ゼツ」「ぐはつ・・・・・」

「デス・ドラゴンはゼツを切り裂いた。」

「ドバル」「ゼツ！――！」

ゼツはそのまま倒れて動かなかつた。

「デス・ドラゴン」「安心しろ。殺してはいない。みねうちだけで済ました。」

「そう。ゼツはデス・ドラゴンにより氣を失つただけだつた。」

「ソル」「兄さん！――！」

ソルは恐怖の顔になり、ゼツの名前を呼んだ。

「デス・ドーラゴン」「ん? 兄さん? ほう・・・貴様ら兄弟か・・・ならば、弟どんな姿にするか兄の前で見せてやるわ。」

そう言うなりいきなりソル突っ込んで来た。

ガギーン!!!!

元ス・トラン・向!?」

ソバ あれ、痛みが感しない……でか刺されてなし……」

ナソの天使軍をこれまでに元々、ヒーリング

貴様に

アーニングの鍔を止めたのは、アーニングが、た

二、六、一

階級はHリー中尉

機体はシャインバスター

機体カラーリングは赤と灰色

目は黄色

メインはビームガン

サブはレイピア

元天使軍で伝説の天使軍の一人。天使軍を退職し、今は新人口ボヤルーキーを教育している。年寄りで武器も弱そうだが、見た目以上に強く、年寄りあつかいにされるのが嫌い。とても厳しいと評判だが、本当はとても優しい。

「デス・ドラゴン」「ラティッシュ……久し振りだな。こんな所で会つとは……」

「ラティッシュ「お主がまだ生きてるとは思わなかつた。いや、むしろ、悪魔軍が生きてるとは思わなかつた。」いや、むしろ、

「ラティッシュ「貴様……我々悪魔軍をなめおつて……」

ソル「兄さん……！」

ソルはすぐにゼツの側により声をかけた。

ソル「兄さん……！……兄さんてば……！」

「ラティッシュ（ん？兄さん？やけに似てないような気がするが……
まあいい。）

「覚悟は良いか？デス・ドラゴン。」

「デス・ドラゴン（く……）」「ドライツと戦つには厄介だ。しょうがない……一度引くとするか。」

「野郎ども帰るぞ……！」

デルビン「了解！！！」

デス・ドラゴン「覚えてろよ天使軍。そして、伝説の天使軍・・・
だが、もうすぐで貴様らはおしまいだ。すでに全惑星に悪魔軍が侵
入した。もうお前たちは終わりだ！！！！！せいぜい死ぬまで待つ
てるがいい・・・ハハハハ！！！！！」

デス・ドラゴンは笑い声をあげながら転送装置に入りこみ消えて行
つた・・・

ラディッシュ「おのれデス・ドラゴンめ・・・」

ラディッシュは怒りがこみあげて言ひた。
すると、

ゼツ「痛つて～」

ゼツは目を覚まし、ソルは泣きながらゼツに抱きついた。

ソル「兄さ～ん！！！！！！！」

ゼツ「うおーーーーーうしたソル？」

ランバル「お前はデス・ドラゴンにみねうちにされて氣絶してたぞ。
それを伝説の天使軍、ラディッシュさんに助けられた。」

ゼツ「え？ 伝説の天使軍？」

ラディッシュ「わしじや。」

ゼツはちょっと驚いたような表情で言った。

ゼツ「この小さな口ボが伝説の天使軍？まさかな・・・」

ゼツは笑いながら言った。

ガンツ！――！

ゼツ「ぐへん！――！」

ゼツはラティツにドロップキックされた。

ゼツ「痛――よ、じ――い――！」

ラティツ「誰がじ――じ――」の若者つが――！――！」

ゼツ「お前だよ――――チビじ――！」

ラティツ「何じゃと――――――！」

ドバル「まあまあ2人とも。結局似たり寄つたりだしあきらめなww

wwww

ゼツ・ラティツ「殺す！――！」

さすがのドバルも身を縮めたへへ；

ランバル「で、今からどうすればいいのですか？ラティツさん。」

ラディッツ「わし一人で行く。何としてもあのクソ悪魔軍を倒さなければならぬ。」

ソルは悲しそうな顔で言った。

ソル「けど、あなた一人で行くのは危険すぎます……行くなら俺たちも一緒に行きます!!!!」

ラディッツ「ダメだ……お主らには危険すぎる……さつきの戦いを見ただろ？さつきはリーダーだけ来たからよかっただが、全部の悪魔軍が来たら本当に死ぬぞ……！」

ラディッツは強く拒否し、ソルは落ち込んでため息をついた。それを見たゼツはラディッツに頭を下げてお願いした。

ゼツ「俺からもお願ひします。俺たちをつれて行ってください……！……どんなこともするのでお願ひします!!!!！」

ラディッツは頭をかきながら言った。

ラディッツ「頭を下げられてまで言われるとは……分かった一緒に来い。4人ともな。」

4人「やつた————！」

ラディッツ「ただし、わしの足だけは引っ張るなよ？」

4人は大喜び。ラディッツは少しあきれたが心の中では喜んでいた。

ラディッツ（嬉しいの〜久々に部下をつれて悪魔軍を倒すなんて・・・）

「おい…………お前たち…………」

4人はすぐに喜ぶのをピタツと止めた。

ラディッツ「今からポイーンの悪魔軍から倒していく。そして、他の伝説の天使軍に合流して叩きのめしに行く…………」

ドバル「え？他にも伝説の天使軍いるの？」

ランバル「当たり前だろう。伝説の天使軍は3人いるってお前も知ってるだろ？？」

ドバル「あ・・・そうだった。」

ランバル「バカが・・・」

ランバルはあきれて言葉を失った。

ラディッツ「ほほう・・・さすがじゃな。確かに伝説の天使軍は3人いるその内1人のはもう伝えた。」

ラディッツはニアニアしながら言った。

ソル「1人？もう1人には？」

ソルはキヨトンとして聞いた。

ラディツツ「もう1人は今は行方不明。連絡は取れない状況じや。まあ、そのうち来るじやろつ。」

4人はガックしし、頭を抱えた。

ランバル「マジかよ・・・大丈夫なのか?」

ラディッシュはやれやれと首を振りながら言った。

ラディツツ「大丈夫だ。わしを一体誰だと思ってるんじゃ?」

ゼツヒドバルすぐに言つた。

ゼツ・ドバル「じいさん。」

ラティツ怒りくもつたかのよつて言つた。

ソルとランバルはあきれて見ていた。

ソルは話を割り込みラディイツツに質問した。

ソル「ところで・・・ボイーンの魔羅軍を倒すって言つてゐるけど・・・どうから瀆すの?」

ラディツツは笑いながら言つた。

「フティッシュ「決まつてゐるだらう、奴らの基地かひじや。」

ゼツ「その基地はどこにある?」

フティッシュは教官に向いて話た。

「フティッシュ「もう悪魔軍の基地はどこにあるか分かつただらう?」

教官「もちろん。場所はヒラタイ平原だ。」

フティッシュはニアツと笑い言つた。

「フティッシュ「やはりな。あそこなら、天使軍の特殊バリアも溶けて殺しあつのを見とれるからな。」

ドバルは焦つて聞いた。

ドバル「じゃあどうするんだよ?」

「フティッシュ「安心しろ。お前たちそんなバカなことをしないじゃらう。」

フティッシュは親指を立てて言つた。

そして、ゼツは大声で言つた。

ゼツ「よーし……まずは、悪魔軍の基地を潰すぞ……！」
「……！」

4人「お————！」

こうして5人の旅が始まった。

第3話「ヒラタイの悪魔軍基地」

第2話 生きていた悪魔軍（後書き）

いや～ついに本格的になつて行きましたね~~~~~これから楽し
みです^ ^

感想やアドバイス、間違つている言葉があつたらコメお願ひします

^ ^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6179z/>

C21 ~天使軍対悪魔軍~

2011年12月22日00時45分発行